

## 研究調査：自閉症はワクチン接種率の高い地域ほど流行

ショッキング！ ワクチン接種の多い地域ほど自閉症発症率が高いことが判明

【訳者注】この種の警告ニュースはいくらでもある。例：「ビッグファーマ重役：ワクチンの中の胎児の細胞（DNA）が、自閉症の原因か？」「Ebiomedicine 研究：DTP ワクチンが乳児を救うより 10 倍殺している」「MIT トップ科学者：2050 年までに世界の子供の半分が自閉症患者になる」など。

問題は、ここに言われていう通り、「ワクチンの教条的ドグマは、ワクチンの安全性が完全ではないことを示すかもしれない、いかなる合法的な科学的分析をも禁じている」ことである。また、「ワクチンのファシズム体制から、誰が利益を得ているのだろうか？」と、論者は問うているが、これは単純に答えられるものではないと思う。彼ら権力者の動機の根本は、単なる利益でも、もちろん憎しみでもない、おそらく彼ら自身も気づいていない、終末的な悪の衝動ではなからうか？ 憎しみも恨みもない子どもを狙う現今の戦争や、ペドフィリアや子ども取引ともつながった、人間的理由を超えたものではなからうか？

Paul Whitehead, [www.neonnettle.com](http://www.neonnettle.com)

May 2, 2018



カナダ政府は、自閉症の発症率が、ワクチン接種率の高い地域で、遥かにより高いことを前から明らかにしていたことが、新しい調査研究でわかった。

このショッキングな発見は、統計グラフによると、ワクチン接種が盛んな地域ほど自閉症が増加していることを示している。

World Mercury Project によれば、カナダは、自閉症発症率の「トップ 10」の中に入っており、自閉症の密度分布で、カナダの子供は、66 人に 1 人であることが明らかになった。

「全国監視システム」(NAS) が、カナダの公衆衛生局によって設けられ、自閉症と診断された子供の数を追跡調査し、「地域と時間の両方にわたる」自閉症の診断の、統計調査が行われた。 <http://www.neonnettle.com/tags/autism>

データによれば、2003 年以来、自閉症に分類された症状 (ASD、autism spectrum disorder) が確実に増加しており、地域同士の間にはかなりの違いがあることがわかった。

研究の対象になったのは、ブリティッシュ・コロンビアの 6 つの地域だった：

ニュー・ブランズウィック  
ニューファウンドランドおよびラブラドル  
ノヴァ・スコシア  
プリンス・エドワード島  
ケベック

最高の自閉症率をもつ 3 つの地域は、ニューファウンドランドおよびラブラドル (57 人に 1 人)、プリンス・エドワード島 (59 人に 1 人)、ケベック (65 人に 1 人) であり、そのすべてが最高のワクチン接種率を示していた。

Natural News はこう言っている：——「その上、自閉症の最高率を示す地域は、近年内に、ASD 症状の膨大な増加を経験したようである。ニューファウンドランドとラブラドルは、6 から 19.6 per 1,000——227 パーセントの増加——を示し、プリンス・エドワード島は、5 から 17.7 per 1,000——257 パーセントの増加を示した。しかし最もショッキングなのは、ケベックのデータで、そこでは、ASD 症候を示す者が、3.5 から 15.7 per 1,000——驚くべき 349 パーセントの増加を見せている。」

<https://www.naturalnews.com/2018-04-30-autism-is-highest-in-areas-with-the-highest-vaccination-rates.html>

ワクチンの教条的ドグマは、ワクチンの安全性が完全ではないことを示すかもしれない、いかなる合法的な科学的分析をも禁じている。

ある開業医は、地域での否定できない“偶然の一致”に気づいき、あえてこう警告した：—

自閉症の最も高い率をもつ地域は、同時に、ワクチン接種の最も高い率をもつ。

ブリティッシュ・コロンビアの Zimmerman 博士が言っているように、2013 年という過去に発表された、カナダの子供たちを対象にした、ワクチンについての報告があった。それは、ASD 調査のデータが集められた、ちょうど 2 年前のことだった。

そこに、こういう事実がある——その当時、ニューファウンドランドとラブラドルは、**ワクチン接種**の率が最高であり、ユーコン (Yukon) は最低だった。

現在、データが示すのは、ニューファウンドランドとラブラドルでは**自閉症**の率も最高で、ユーコンのそれも最低であるようだ。誰がそんなことを考えただろうか？

相関関係が因果関係を示すとは限らないとは言うものの、このような事実は、調査研究に値する関連性をもつだろう。

それだけでなく、数えきれない親たちが、子どもがワクチンを受けた後で、急変したと報告している。これは、いやしくも科学者の名を持つ者にとっては、少なくとも懸念すべき対象である。

悲しいことに、ワクチンの教条ドグマは、我々の社会に当然のように取り込まれていて、ワクチンの安全性を疑うというアイデアさえ、とんでもないことのように見られている。

実際、あえて、ワクチンには有害成分が含まれているとほのめかす人々でさえ、“へんな奴” “陰謀論者” “真の科学”を否定する者、といった符牒を張られる。

真のオーウェル流の意味で、ワクチンは子供に害を与える可能性があると言明する者は、誰でも、“反科学”という汚名を着せられる。

現実には、ワクチンは完全に無害だという信念こそ“反科学”であり、それはワクチンが毎年、子どもたちに害を与えている可能性があり、そうなっている山ほどの証拠を、無視するものである。

こうしたワクチン・ファシズム体制から、誰が利益を得ているのだろうか？

(関連：最近のワクチン事情については、[Vacctines.news](http://Vacctines.news) または、[AutismTruthNews.com](http://AutismTruthNews.com) を参照されたい。)